

婦人の声を市政に

アンケートをもとに 活発な質問

市連合婦人会（西森律会長、会員約一千六百人）恒例の「第二十四回市政会議」が、二月二十八日、市役所大会議室で開かれました。婦人の社会参加を進め、市政を学習しようとする毎年の開催されているもので、婦人会側からは市内各地の代表約五十人、執行部側からは小笠原市長、吉本・浜田両助役、関係課長らが出席し、また議会からは岡崎議長、門田副議長、各常任委員長が参加。婦人会が各地区でアンケート調査した資料をもとに市政全般にわたって話し合いました。

まず、西森会長が「国際婦人年」も今年が最終年。地域ごとに社会参加と学習の輪をさらに広げていきたい。毎回同じ質問が出ていることの意味を行政側は、よく考えてほしい」とあいさつしたあと、小笠原市長が「今日は、行政について有意義な質問やご意見をいただけたと存じます。今後、市政の三つの柱である空港、財政、同和対策に産業の振興、教育も市政



市執行部に40項目の質問をした

主な質問の内容

○今、全国的に行政改革の気運が盛り上がりつつあるが、市の取り組み、具体策はどのように。
●今後の取り組みとしては、やはり経費を切り詰める必要がある。行政の守備範囲を見直して市民自らがすること、あるいは市と市民が連携して行うことに考えてほしい。また、市民の中にも議論は賛成だが、各論は反対との声がある。皆さんの協力がなければなかなかできない。行革は、市民の立場から監視をしていただき無駄を省いて効率を上げるために協力をお願いしたい。

○ジェット機の騒音で、線引き内の地区はもうそれ以外、それ以外の地区でも迷惑している。線引きの見直しをしてほしい。また、低騒音機の導入についてはどうか。
●ジェット化前に騒音を予想して区域指定がなされているが、科学的にみて今のところ、それ以上の方法がない。議会の空港特別委員会も運輸省へ陳情したが、線引きの大幅な変更は難しいだろうといわれている。また、昨年には県が四季を通じての騒音調査をしており、その結果も待ちたい。

低騒音機の導入について、機種の設定は各航空会社がやっており、んにPRしている。市民のモラルの問題でもあるので、各地区で議論して取り組んでいただかないと、これ以上、前へは進まないのではないかとも思う。また、婦人の果たす役割は大きいので、この問題をそれぞれの地区へ持ち帰っていただき、皆さんの協力をお願いしたい。

○昼休み時間の窓口業務はできないものか。
●現在、労務管理面のこともありやっけないが、特別な場合には対応しているケースもある。今後支所廃止の問題と絡めて、行財政事務改善委員会の意見も聞いて、諸証明の事務だけでもやるように努力する。

○市役所の駐車場がいつも満車だ。教育を希望する。
●同和対策事業で環境は整備されてきたが、もう少し社会教育の充実を図る必要があるのではないか。
●空港のジェット化を生かした市勢発展を望む。
●市の中心になる所が見当たらない。これからの中心になる街を計画、実行していくべきだ。
●農道を含む道路や河川、用水路の早急な整備を要望。特に農業用水路の整備が遅れている。
●道路、河川、下水等については、運輸省は、その窓口の形になっている。新しく開発される機種は低騒音機に変わるので、徐々に低騒音機が導入されると思う。
○阿佐線建設について、今回のアンケートでも賛否両論あったが、現状はどのように進んでいるか。また、マイカー時代に採算がとれるのか。そして、市にメリットがあるのかどうか。
●県が中心となって採算性、経営方法など資料を作って検討している。市としては六項目の条件を付けて協力しようということですが、騒音やルートの問題もあり、市へのメリットは他市町村に比べて少ないのではないかとと思う。
○吾岡山の跡地については、以前から運動公園にとの要望がある。どのような計画になっているのか。さらに四十五メートルの高さまでにして跡地を公園化する。市街化調整区域なので雑木林など周辺も含めた五〇以上で公園化する構想だ。
○今年国際青年年です。青年のフレッシュなエネルギーを取り上げてほしいが、その計画は。
●現在、事業計画については教育委員会が中心となって、予算化もお願いしている。社会参加活動の促進など三つの重点目標を掲げているが、県や国の事業とのかかわりもあるので具体的なものはこれか

らだ。有意義なものと考えている。

○窓口の職員の対応が良くなったとの声が多く聞かれるようになったが、勤務時間内に食堂へ出入りするなどの状態が見受けられる。職員数が多いとの意見につながるのではないか。

●職員の勤務規律については文書を通して、また、職員組合等も通じて指導している。徐々に向上していることは間違いないが、厳正に守らなければならない問題だ。

○総合文化センターの建設を望む声が多くあるが。

●今は学校の改築が優先で、学校の体育館、講堂を整備し、社会教育に活用したい。

○青少年の非行対策について、補導状況や指導体制は。



村山 千津さん
(日章)

参加した婦人の声

どんな会かと思いましたが、活発な意見が出るのにびっくり。今までは市政に関心や疑問もありましたが、婦人ももっと市政について知らなければと痛

感じました。また、小さなことでも市政に反映させることは大切なことだと思います。限られた人数ではなく、もっと多くの婦人が参加したらよいと思いますし、ここでの話を役員さんが各地区へ持って帰り、浸透させているか、少し疑問も感じます。

●補導センターでの補導件数をみると、五十八年度は四百三十一人、五十九年度では二百九人と、二十二人の減になっている。特に中学生の補導件数が二百二十五人から四十三人と大幅に減った。しかし、逆に一般家庭からの相談件数は増えており、また、非行が密室化の傾向にあるなど、実際は問題を持っている家庭は増加していると思われる。親の子供に対する意識の低さも一つの原因だ。対策としては、関係機関の協力とともに家庭へPRするなど、家庭教育へ力を入れていく。

○同和対策については、各地区での学習会や同和推進講座、公民館活動などを通じて続けてほしい。また、会への参加者が少ないので人集めに努力してほしい。

●人を集めるのではなく、地域へ出かけての学習会などで成果は上がっているが、まだ参加者が少ないので、今までの努力を少しなればと考えている。公民館活動などのほか、婦人会のなかでも、もっと学習をお願いしたい。

同和対策事業については、教育委員会とともに啓蒙、啓発活動を行うなど、市民の皆さんに協力を願って進めている。進捗よく状況は、五十九年度末で野中地区が三三・四〇、前浜地区が四七・五〇のの見込みだ。

○ごみ問題は、市民一人一人の問題でもあるが、分別収集の徹底などについて、指導の強化をしてほしい。

寄せられた意見、要望

▼広報だけで広報がない。したがって市の広報があまりよくない。
▼職員数が多いすぎはしないか、一般の会社のように働けば三分の二くらいでよいと思う。職員は公僕ということ認識してもらいたい。
▼学校のクラブ活動で生徒まかせにしているクラブがある。と聞くと、先生方の教育の問題を問う。
▼熱へ通わなくてもよい学校

○市役所の駐車場がいつも満車だ。教育を希望する。
●同和対策事業で環境は整備されてきたが、もう少し社会教育の充実を図る必要があるのではないか。
●空港のジェット化を生かした市勢発展を望む。
●市の中心になる所が見当たらない。これからの中心になる街を計画、実行していくべきだ。
●農道を含む道路や河川、用水路の早急な整備を要望。特に農業用水路の整備が遅れている。
●道路、河川、下水等については、

関係住民の意見を聞きながら百年の計を忘れずに。
▼各種公害の積極的排除の指導強化を望む。
▼保育所の定員は適当か。また、入所決定をもっと平等にしてほしい。
▼新築の建物の評価を厳正に実行すること。
▼農家の利益は家庭の無料奉仕で成り立っており、必要経費が多くなることを分かってほしい。

